

編集：山田浩司&美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: [mickeyy@pc4.so-net.ne.jp](mailto:mickeyy@pc4.so-net.ne.jp) URL: <http://www.sanchai.net>

## 暑中お見舞い申し上げます

## 今年も子供達は元気です

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私達は、ワシントン二度目の夏を楽しんでおります。辺りが暗くなるのは午後9時近いいため、子供達は幼稚園から帰宅すると、毎日のように隣りのマリー&トーマスを楽しんでいます。遊び過ぎて寝るのが遅くなりがちです。ミキオもッチーも、絵がとても上手になりました。そうそう、ミキオは6月に5歳の誕生日を迎えました。

美澄ママのマッサージ・セラピーも、最終コーナーにさしかかりました。1月末から始めた学校通学も、なんとか時間をやり繰りして、眠い目をこすりながら勉強を続け、キツイ授業についてきました。7月末で授業が終了すると、次は国家試験が待っています。

浩司パパも、去年よりも忙しくなった仕事とママの勉強時間捻出に協力しつつも、通信制大学院の授業で出される課題をなんとかクリアして持ち堪えています。レポート提出があつたり、ウェブ上の教室での議論にコンスタントに参加するよう求められたり、かなり大変なことになっています。ママのマッサージで、凝ってる肩と腰を労わりつつ、今日も参考文献に目を通します。

6月から7月にかけて大きなイベントもありませんでした。淡々と毎日が過ぎてゆきましたが、毎日が充実しております。今年の夏休みは8月下旬の予定。フロリダのディズニーワールド&クルーズに行ってきます。ここのところ遠出の旅はしておりませんでしたので、楽しみにしています。



## ムービー・シアターに行こうよ

## 安易な夏のソリューション

美澄ママがマッサージセラピーの勉強を始めて以来、週末にどのように勉強の時間を捻出するかは大きな課題だ。ましてや、パパが大学院の勉強を始めた5月以降は、夫婦揃って週末の時間のやりくりで苦心している。泊りがけの遠出旅行なんてもってのほかで、せいぜい日帰りでストラスバーグやボルチモアに行ったぐらいしかない。いずれも鉄道絡みだ。

春先なら子供を連れて近くの公園に出かけるのがお決まりのパターンだったが、気温 30 度を超える真夏を迎えた今日、この手は使えない。屋外で遊ばせるとなると、庭にビニール製のプールを広げて水遊びをさせるのが精一杯である。夏を迎えて、隣のオショーネシー家の子供達との交流の機会がぐんと増えたが、これに委ねるのは諸刃の剣で、おとなしくオショーネシー家側で遊んでくれていればいいが、トーマスは山田家側にある日本の特撮モノのビデオやキャラクターグッズに興味があるため、必ず我が家に入って来る。これが呼び水となって子供全員が結局我が家を駆け回ることになる。勉強どころではなくなる。

そこで考えたのは、子供達を映画に連れ出すことだ。「スパイダーマン」「Lilo & Stitch」「ザ・パワーパフ・ガールズ」「スクービー・ドゥ」等、季節柄若年層の観客を狙った映画が多いこの季節、安易な解決法かもしれないが頻りに映画館に連れて行った。我が家の近所にある映画館は、同時に 12 本が並行して上映されている巨大な施設で、一応チケットを買う際には何時から上映開始のどの映画かをチケット売り場ではっきり指定しなければならないが、いったん入ってしまえば、何本かをハシゴすることも可能だ。朝 10 時半頃から始まる第 1 回の放映は、観客もまばらで、ぎりぎりになって滑り込んで座席はいくらでもある。

映画館のお楽しみは、上映開始時刻までのひと時を過ごすロビーのアトラクションだ。さながら小型のゲームセンターである。ドリンク & フード・スタンドでソーダとポップコーンを買って、ずらりと並ぶゲーム機を眺めて過ごす。樹生ですら実際にゲームをするには程遠く、操縦桿をガチャガチャ動かしているだけでも十分楽しいようだ。子供向け映画のキャラクターは、大型の人形がロビーに置かれていたりする。一緒に写真を撮るのもまた楽しい。チケットを切ってもらい、上映ルームに入り、暫くはポップコーンをつまみ食いする。普通のアメリカ人は、ポップコーンでもピーナツでも、ボリボリ食べた後の袋や食べかすを平気で足元に散らかすが、うちはちゃんと上映終了を迎えるまで管理していて、帰りがけにゴミ箱に捨てるようにしている。話がクライマックスのアクションシーンを迎えるまで、子供達は面白くないのか「家に帰ろうよ」「未だ終わらないの」を連発するが、いったんアクションシーンが始まると、もうかぶりつきで銀幕にとりつかれる。

こうして映画に慣れ親しむ子供達。家に帰っておとなしくしてくれればいいのだが、「スパイダーマン」を観た直後の樹生くん、我が家の二段ベッドに紐を結んでぶら下がり、さながらスパイダーマンの真似を始めた。よせばいいのにぶら下がって揺れているうちに後頭部をベッドの梯子の角でぶつけ、大きなたんこぶを作って大泣きしまった。

## Mikio、ウェストゲート託児センター卒園

6 月 7 日（金）は樹生のウェストゲート託児センター「レインボー・ルーム」卒園の日だった。厳密に言うと、正規プログラムはその翌週まで続いていたし、それ以降に開催されるサマープログラムも引き続きウェストゲート主催のものに参加させるので、「卒園」といってもウェストゲートに行かなくなるわけではない。ただ、区切りのイベントであったことは間違いない。

ウェストゲートに通わせ始めたばかりの頃の樹生は、言葉が通じない全く新しい環境の中に 1 人で放り込まれ、よく「行きたくない」と駄々をこねた。心細かつ



たのか、迎えに行くと泣いて駆け寄って来ることもあった。それが今では毎日元気に通い、朝教室に行くと先に来ていた子供達から「Mikio!」を呼ばれてすぐに子供達の輪の中に駆け込んで行けるようになった。夕方迎えに行くと、「もっと遊んでいたかったのに!」とむくれることもしばしばだ。いちばん仲の良い友達は、双子のマシューとアンソニーだという。二人に誘われて、一人でうちに遊びに行ったこともある。

パパやママ以上に英語でコミュニケーションしている樹生は立派だ。新しい環境に置かれると未だすぐに溶け込めない内弁慶なところはあるけれど、それでも普段の生活の中で勝手に知ってる友達の輪の中に入るのには全く臆するところがない。千智が通園半年で英語らしき言葉を普段から口ずさむようになったのは、樹生の腰巾着として付いて回ったことが大いに影響している。時々妹をぶったりするけれど、思いやりもある優しいお兄ちゃんだ。交わす言葉の端々に妹を気にかけている様子が窺える。この1年で身長が10センチ伸びたけれど、10センチ以上に大人びて見えることが多々ある。

私の任期が1年延びて、樹生が小学校に入学する半年前まで、アメリカの公立幼稚園に通うことになった。9月からはスクールバスで通学だ。英語はもっと上達するだろうが、日本の小学校に入ることを考えると、これからの1年間、日本語の本を読めるようにするため、パパ&ママに突きつけられた課題は大きい。みきちゃん、頼んませ!

## 国際機関の年度末

### 平日にピクニック?

世銀の会計年度は6月末で終わる。日本の政府機関でもよく見られることだが、年度末に予算に余裕があると、普段とは少し違った活動が突如として実施される。勿論、年度内使い切りの日本と違い、世銀の予算は翌年繰越ができるので、日本の公共事業みたいな年度内駆け込み事業というのは殆どない。むしろ、年度末になって慌ててもしょうがないので新年度に向けて英気を養おうと業務をスローダウンさせたり、或いは部署によっては翌年度の予算で沢山配分を受けるために、年度末まで予算執行を頑張って実績を作ろうという動きを見せるところもある。

では我が所属先の資源動員・協調融資局(RMC)では何が行なわれたかということ、5月下旬に1泊2日で「リトリート」(復習という意味らしい)と称し、郊外の施設に缶詰になって、組織の目的と結束の再確認をやった。そして、6月後半の火曜日に、「ピクニック」なるイベントをやった。全員参加のゲームはあるものの業務の一環らしいミーティングもやったリトリートと違い、ピクニックはその名の通りピクニックだ。郊外のリゾートクラブを借り、料理のケータリングを取り、ゲームやったりスポーツやったり、家族同伴OKのお気楽イベントだった。しかも、参加料はタダ。つまり、RMCの予算から出ているのだ。平日に開催するセンスは日本では考えられない。しかもご丁寧に、「如才なきことながら、ピクニックに参加しない職員はしっかりオフィスで働いて下さい」との指示が事前に出ていた。ピクニックへの参加は半ば強制だ。

日本の会社の社内運動会も、平日にやったら従業員は結構参加するかもね。

### 自分の業績評価

世銀にはOPE(Overall Performance Evaluation)という制度がある。3月末切りで過去1年間の業務実績を自己評価して上司にアピールし、上司が実績を評価してくれたら7月からの給料が上がるのだ。次の1年間の活動計画PA(Performance Agreement、言ってみれば職員一人一人の公約)と、それに必要な能力向上計画DAP(Development Action Plan、職員研修で何を受講するかとか、どのような課外活動に参加して能力を高めるかとか)も併せて提出する。それらは1年後のOPEの判断材料になるのだ。

給与見直しの材料にされるとはいえ、私のように1年間いくらかの固定給で契約している期限付

職員の場合、任期が終われば世銀を離れるわけだから正直なところ OPE を真剣に取り組もうというインセンティブはそれほどない。でも、できるだけ世銀で働きたいと思っている常勤職員場合、自分を良く見せて昇給を勝ち取ることは死活問題である。E 女史のように、自分の能力が正当に評価されていない、もっと責任を与えられればもっと良い仕事ができる筈と思っている職員は、OPE が適切なプロセスを経て上司によって承認され、7 月からの給与に反映されるために必死になる。

ところが、私の所属先では、OPE のプロセスが大幅に遅れている。公式の日程ではとっくの昔に上司の承認を得ていなければいけないのに、誰も承認を貰っていない。うちは 2 月にマネージャーポストが新設されたので、OPE に関しては、組織再編前の上司にあたる別の部のディレクターに承認を受ける必要がある。ところが、このディレクターのところ OPE 案が届く前の段階で、チームリーダーの C 女史が 2 ヶ月以上止めてしまった。E 女史はかんかんで、「2 年間昇給を保留されたのでは納得がいかない。自分は他の部署に移る」と密かに決意し、ただ今就職活動中である。こうして書いていくと問題はうちのチームリーダーかと思われるだろうが、そういう状況を放置しておくディレクター自身にも問題はある。自分と同じ P 国籍の職員の OPE はどんどん済ませ、高い評価を与えて昇給させている。子飼いの職員以外への評価は結構後回しにするらしいという評判を複数の職員から聞いた。このように、OPE を公平に適切に行っていない管理職は、世銀全体を見回しても結構いるらしい。

もう一つ私が問題だと思うのは、今のマネージャーのリーダーシップである。OPE・PA・DAP 作成のプロセスについては、4 月下旬のスタッフミーティングで日程確認をして、ユニットの全メンバーが 5 月第 1 週までに作成することで合意していた筈だ。だから、私はそれを守って 5 月 1 日にチームリーダーに全て提出した。OPE はともかく、PA と DAP は今後の活動計画だから今のマネージャーといずれ協議の上承認を得なければいけない。マネージャーの海外出張日程との関係で、5 月第 1 週中に作成することに決まっていた筈なのに、その後 2 ヶ月間、マネージャーは何もやっていない。OPE に限らないことだが、折角スタッフが集まって合意したことなのに、マネージャーとチームリーダーが揃って合意事項を遵守していない。これではスタッフミーティングなどやる意味がないではないか。

この問題提起は、捨て身の E 女史が声を挙げたから 7 月になってからようやく管理職にも取り上げられるようになった。他の部署に移るにしても、今の部署での業績評価をちゃんと受けておく必要があることがわかったからだ。ある意味、あまりオーナーシップがなくて問題提起を今までやらなかった私自身も同罪の責めを免れ得ないが、今までに誰も問題提起をしなかったということは、OPE は管理職が口で言うほど「重要」だという認識を持っていない、或いは「重要」だという認識を一部職員の昇給の材料として持っている程度だということ、多くの職員が見透かしていることの裏返しだと思う。

## 嗚呼やいきれない、世銀グループ職員の殺人事件

6 月最もショッキングな出来事は、世銀グループの 1 つである国際金融公社 (IFC) の職員が犯した殺人事件だ。ワシントンポスト紙が相当詳細な記事を掲載していた。この職員は、なんと 3 歳と 5 歳の自分の子供 (我が家の子供達と同じじゃないか!) を自宅で絞殺したのだ。奥様は日本人で、離婚訴訟の真っ最中だったらしい。この職員、日本での駐在経験があり、その時に知り合った奥様と結婚したのだが、職員と年が一回り離れたこの奥様、英語はからっきしできず、アメリカでの生活にストレスが相当あった。それで、子供を連れて何度か日本に帰っていたのだが、約束の日までにアメリカに戻らず、「その気になるまで」日本の実家に滞在しているケースが多かったそうだ。離婚訴訟は、一方的に子供を取られた夫側が起こしたものだ。さて、この職員、IFC の職員簿で顔を見ると、とても優しくなイスミドルという感じで、とても殺人事件を犯すような感じはしなかった。(が、新聞記事によると、別れた前の妻との間でもストーカー的行為があったとか。) 隣の E 女史との世間話でこの話題が出た時、私が「それにしてもその人の上司は、その人の心の悩みを察知できなかったのかね」と尋ねたところ、E 女史は、「当たり前よ、この組織の人間は皆自分のことしか考えていないんだから」と答えた。とても寂しい話だが本当だと思った。

## 編集後記

- 「サンチャイ通信」も 15 号を迎えますが、今回はネタ探しに最も苦しみました。特段スペシャルイベントがあったわけでもなく、何だか淡々と過ごしてしまった感があります。とはいえ、それなりに何かをやっていたのではないかと、振り返ってみると考えたりもします。
- 向かいの家（イギリス大使館の借上げらしく代々イギリス人が住んでいます）に新しく越してきたジョン&ダイアナ御一家から招かれてパーティーに出てきました。子供同士はすぐに打ち解けて、特に一番下のアンナと樹生は歳が近いのですぐに追いかけてこをしましたが、親の私達は欧米人が好きなこの類のパーティーの雰囲気にはイマイチ慣れておらず、なんだか疲れました。前の住人は 1 年くらいしか滞在せず、姿を見れば手を振るくらいの関係で話をするのもあまりなかったので、これをきっかけに今回は仲良くできればと思っています。
- その前日は JICA の駐在の御家族を招いて裏庭でバーベキューをやったのですが、10 人くらい的人数で小パーティーをやる方が自分達としては気が楽です。
- 7 月 4 日の独立記念日の前後は、アメリカではスーパーマーケットの駐車場にわか花火スタンドが開店する花火のシーズンです。独立記念日の夜は午後 9 時過ぎからワシントン DC でも派手な打ち上げ花火が何発も上がって記念ムードを盛り上げるのですが、それに呼応するように Quantico Street 境界の子供達も、庭で「パチパチ」始めます。我が家ではそんな慣習にお構い無しに、独立記念日の前から何度か裏庭で花火を楽しみました。日本の花火よりもやや高価ですが、長持ちします。また、日本の花火よりも色も弾け方も派手で、近くにいるととても危険です。庭が広いアメリカの一軒家ならではの花火だと思えます。
- さて、美澄の授業は今月いっぱいようやく終了します。いろいろとネタを溜め込んでいる様子ですので、最近仕事と学業の両立で大苦戦を強いられているパパに代わり、8 月はママ主導で編集を進めてもらえるものと密かに期待しています。